

## 第1回

# 武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議

## 議事要旨

日時：令和3年3月5日（金曜日）

午後6時～午後7時30分

出席者：<委員>河邊委員、今福委員、加藤委員、平川委員、村松指導課長、勝又子ども

家庭部長

<市・事務局>吉田子ども育成課長、事務局2名

委員発言■、事務局発言○、決定事項は◎ゴシック下線

## 開 会

### 1. 子ども家庭部長挨拶

このたびは、それぞれ職務御多忙のところ、武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議の委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。

会議の趣旨については後ほど担当から御説明いたしますが、学習指導要領の理念である「生きる力」につきましては、今年から始まった市の最上位計画である第六期長期計画、また、その個別計画である第五次子どもプラン武蔵野の中にも基本施策として掲げ、「生きる力を育む幼児教育の振興」でも、市の子どもプランの重点事業として挙げております。これから来年度をまたぎまして御協議いただきますけれども、武蔵野市の子どもが、保育園であったり、幼稚園であったり、認定こども園であったり、いろいろところで過ごしておりますが、それぞれの子どもが共通の理念の下、子どもの最善の利益を保証できるように、いろいろな立場の方々から活発な御議論をいただきまして、この会が有効な会議になりますことを祈念しておりますので、どうぞ御協力をお願いいたします。

簡単ですが、御挨拶とさせていただきます。

○市の主催する会議につきましては、原則公開することとなっておりますが、今回の会議につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン会議とすること。また、会議開催後に議事要旨を公開する予定であることから、非公開の扱いとしてよろしいでしょうか。

■異議なし

◎会議は非公開とする。

【委員自己紹介】

### 2. 座長、副座長の選任

○武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議設置要領第4条の規定により、座長は委

員の互選により選出し、副座長は委員の中から座長が指名することになっています。どなたか立候補または御推薦をいただけますでしょうか。

■武蔵野市の歴史をよくよく御存じで、幼児教育の見識の深い河邊先生にぜひお願いしたいと思います。

■異議なし

○この後の進行につきましては河邊座長にお願いしたいと思います。

■ありがとうございます。少ない人数の会ですので、充実した会にしていきたいと思えます。お助けいただく副座長の指名を行いたいと思うのですが、どなたか立候補されたい委員の方はいらっしゃいますでしょうか。

いらっしゃらなければ、私は教育学の観点からお話ししますので、心理学の観点から今福先生にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

■異議なし

### 3. 資料説明

・事務局より、資料3「武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議」を説明。

・村松委員より、資料4「武蔵野スタートカリキュラム」について説明。

■幼児教育と小学校教育というふうには「教育」がつくと「接続」と言って、幼稚園とか小学校という名前だと「連携」と言っているのですね。資料3の論点の3つ目、「幼稚園、保育園と小学校の」は「接続」ではなくて「連携」になると思いますが、教育の接続でよろしいですか。

○御指摘のように、「接続」と「連携」という言葉の使い方については、整理させていただければと思います。

■幼児教育と小学校教育の接続のことを考えればよろしいですか。

○教育の接続という考え方だと思います。

○資料4は今までの1年生の先生が既にやっていたことで、特に新しい感じがしないのですけれども。

■これはもうでき上がっていて各校に配付しているのですが、今までやってきた部分と、目新しく変わっているが十分に分かりにくい部分があり、このとおりに実践ができているかという、なかなか難しいところもあるかもしれませんが、これ以上にいろいろと考え

たスタートカリキュラムで各校工夫してやっただけでいる部分もあると思います。

■スタートカリキュラムの件で言えば、うちの園の先生も参加しているんですけども、大筋でき上がったところで幼児教育の話を少しさせていただいたぐらいで、冒頭の文章も小1プロブレムから始まっているという非常にネガティブな書きぶりで、教育要領が新しくなって、3法令が変わって、高校卒業まで、18歳までを見通した今のナショナルプランの中では、考え方をまた変えていかなきゃいけないと思いますし、長野県もアプローチカリキュラムなんてまだ古いことが書いてありますし、本当に幼児教育から載せていくのをどうあるべきかというのは、一つ大きな論点だと思います。

もう一つは、保育所がものすごく増えている中で、乳児期から幼児期にどうつないでいくのか。愛着形成とか、乳児の探求心も含めて、そこから3歳にどうつなげるかというあたりも非常に大事なこれからの論点だと思います。

#### 4 意見交換

■せっかく作るなら、「武蔵野市はいいのを作ったね」と言われたい。型通り作るということじゃなくて、本当に実効性のあるいいものを作りたいなと思います。

武蔵野市保育のガイドライン令和2年度改訂版の中に生きる力について書いてあることをピックアップしてみました。

第五次子どもプラン武蔵野の計画の4つの基本理念のうちの1つが「子どもの「生きる力」を育む」ということで、御覧のように、様々な環境と関わって、経験を積み重ねる中で生きる力が身につけられていくんだという大事なことが押さえられています。この新しい「時代に必要となる資質・能力」の「新しい時代」とは一体何かということまではここには書かれていませんで、実はこれから迎える新しい時代は一体どんな時代で、だからこんな力が必要で、じゃあ基礎となる幼児教育はどうしたらいいのかというふうに、ちょっと精緻に考えていく必要があるのかなと思いました。ただ、「自ら課題に気づき、他者と協働しながら課題を解決する力」というのは、21世紀型スキルと言われている重要な力ですので、これを生活や遊びの中で身につけさせていくというのは、幼児教育の根幹の問題だと思います。

保育のガイドラインの中では、「子どもたちは、生まれたときからいつも、毎日の生活や遊びの中であらゆることを学んでいる」と、ちゃんと押さえられています。このガイ

ドラインにおける教育とは、子どもたちの意欲や主体性を大切にし、その学びを支え、促す、これもとても重要で、子どもたちの伸びゆく力に信頼を置いて、そして学びの方向を支えながら、それが促せるような保育環境を整えていくということだと思います。このガイドラインの中で赤字のところは、ぜひ私たちが作るこれからのものにも生かしていきたいなと思います。保育環境の充実と保育者の質の向上というのが、何をおいても大事なのかなとガイドラインを読んで思いました。

さっき申し上げた新しい時代は一体どんな時代かということなのですがけれども、これからとても想像ができないような時代を迎えるように思います。不確実性の時代である、何か分かっている正解ではなくて、みんなで最適解を求めていく、これは今回の幼稚園教育要領、学習指導要領の改訂でも盛んに奈須先生がおっしゃっている言葉で、みんなで協力的に問題を解決していく力が求められていくと。

それから、人生100年時代。もし私たちの寿命が今のように長いとすると、一人一人が幸せを実感できないと駄目なんだろうと思います。これは今般のコロナのことでもみんな実感しているんじゃないかと思います。何が自分にとって大切かとか、どんな生活が幸せかということに気づかされているように思います。昨年の9月にユニセフでやったレポート2.0では、日本の思春期の子どもたちは精神健康度が38か国中37位であると。身体的な健康は38か国中第1位なのに37位って、結局他者評価に揺るがされて、どうも自分自身に自己肯定感を持ってないというのはずっと言われてきていることです。幸せって充実しているということをどうやって幼児期から獲得していくのかというのは、とても大きな問題なのかなと思います。

それから、人新生（ひとしんせい）の時代。人新生（じんしんせい）とも言いますがけれども、今残り時間が少なくなって行って、人類がこのまま地球温暖化を防がないと恐ろしいことになる。あと40年ぐらいの間に平均気温は4℃上がるとか言われていて、人類が地球環境や生態系に大きな影響を与えている時代だ。これは地質系の学者たちも言っている。となりますと、目の前にことだけ考えるんじゃなくて、見えない世界中のことを考えて、自分もそこに連なっているという意識が必要なんだろうと思います。他者との連携や、少し遠い目に見えないところまで考えて、連なっているという意識が持てる人というのが、必要なんじゃないかなと思います。

こういう本当に不確実な時代に向けて、幼児期は何が大事かと考えていくと、今までやってきたことが、とても重要なんじゃないか、そのことをますます確信持って進めてい

く必要があるのかなと思いました。

これが21世紀型スキル、これから生きる力にはどんな資質が必要か。これは幼稚園教育要領や学習指導要領の改訂に当たる前に盛んに言われていたことで、何かを知っているだけじゃなくて、知っていることを使って他者と協力しながら社会を変えていく力、認知能力だけじゃなくて対人関係能力とか、どんな人格を持っているかとか、そういう多面的な力が総合的に働いて、自分だけがよければいいのではなくて、個人主義ではなく、自国第一主義ではなく、人生の成功とともに社会の持続的な発展に貢献できる能力。これに向けて幼児教育も、それから小学校教育も全部改訂がされているのだと思います。

では、幼児期はどうかということなのですが、生涯にわたって必要な生きる力の基礎ですので、やはりどの子ども、生まれてきてみんなが喜んでいる、自分は生まれてきてよかったと思える絶対的な安心感を得て成長していける。それから自己肯定感、自己有能感とか自尊感情といったものがきちんと育まれる。それから他者への基本的な信頼感が持てる。それから、自分は何かをしてできる存在なんだという主体的、学びに対する能動的な構えを育てたい。学び方はもちろん幼児教育と小学校教育では違いますけれども、この能動的な構えが育っていることで、小学校にそれがつながっていくだろうと思われたい。それから豊かな感性、何かを感じる力。これが何より大事だと思っていて、きれいとか、五感がちゃんと働く。感じるから考えられるという、この認知的な力と非認知的な力の両方がうまく回るような力が必要なのではないかと思います。そのためには感じるということとはとても大事なことなので、豊かな感性を育むというのは、幼児期の生きる力としてはとても重要だと考えます。

では、それは何を通して育まれるかということ、これは幼稚園教育要領にも書いてありますし、スタートカリキュラムブックにも書いてあります。子どもプランでもちゃんと押さえられていて、生活や遊びを通して、感じて、考えて、行動できる力を具体的な体験を通して育成したい。しかもそれは一人でも考えられるし、みんなと考えるともっとよいという。みんなとしか考えられないというのも困るし、一人でというのも困るので、一人でも、みんなともということも強調したいと思います。

遊びのことでありますが、これは私がいつも遊びの定義のところを押さえたい3つのことですが、いわゆる主体的で対話的な深い学びに対応しているので、御紹介したいと思います。

遊びは、子どもが興味関心を持った身近な環境、文化的実践に関わることによって生

み出されるものであって、遊び手の自発性に支えられて展開します。自発的に動かない人は、本来はいないはずなので、それが何らかの外圧によって、その力が発揮できなくなっている状態を防ぎたい。自発性というのは、おもしろいという情動によって支えられているので、よりおもしろくなるように子どもたちはモノやコトや人に遊びの中で関わってきます。これが対話的。文科省は、対話的というのは人のことと今回は限定しているのですけれども、実はモノとかコトとかにも対話的な状態で子どもは向き合っていると思います。

砂場で遊ぶ子どもなんかは、砂の状態と対話しながら没頭して遊んでいくと思うので、対話しながら関係を深めていく。深めていくというのが没頭の状態を生んでいると思います。ですので、何かに没頭しているかという状態が、本当に武蔵野市の全ての幼児教育施設で行われているかどうかというのが、とても問題なんじゃないかと。

関わりが深まることで遊びのおもしろさというのが増して、子どもの興味関心がさらに深まって、体験の中で深い充実感とともに、そこで汎用可能な知識や技能、認知的なスキルも重要になってきますので、ここが深い学びにつながるのかなと思います。ただ単に子どもが主体的に遊んでいるからいいわという訳ではなくて、学びが深まっていくという遊びを、どうしたら武蔵野市中で展開できるのかというのは、一つの大きな課題なのかなと思います。

一つ一つの園に手を突っ込んで私たちが改造していくことはできませんから、それを論点の中では「共有の仕組み」というふうに言ってくださっているんじゃないかなと思います。研修のことでしょうか。情報共有の仕方でしょうか。情動が動くということが重要なんじゃないかと思います。

子どもの遊びをよく見てみると、関わり方を変えてみたり、変化をつけたりするところ、教科学習になっても同じことだと思うのですね。子どもがただ単に教えられたことを記憶していくんじゃなくて、自分なりに関わりを変え、変化をつけて対象との関係を深めていくこと。そういうことがしっかり押さえられているスタートカリキュラムだったらよかったですけれども、資料4の中にはそういう根本的なことが押さえられてなくて、とても残念と思っています。

武蔵野市の幼児教育の課題。全幼児教育施設の保育の質の向上をどうしたらいいのか。特に遊びの充実と保育環境の問題。設置の環境が全然違いますので、園庭のない保育施設もたくさんあります。園庭があっても、近隣の苦情で、園庭で遊べないという保育施設も

市内にはあります。そういう保育環境のいろいろな違いを越えても、どうしたらいいのかを考える考え方、このことは共有していきたいなというふうに思います。

それから、教育全体の中で幼児教育が全く武蔵野市は位置づいていません。「きょういく武蔵野」の中に幼児教育が入っていない。何とか認識を共有していきたいと思います。特に小学校教育との接続の充実なのかなと思います。

■幼児教育の重要性というところで発達心理学の知見の方面からの意見を述べさせていただきます。

先生がおっしゃったようなことは非常に重要だと思っております。まず先ほどOECDの社会情動スキル、先ほど挙げていただいた目標の達成、情動の抑制、他者との協働というところですね。この前にやはり安心感、信頼感とか、発達心理学のほうで0から1歳で発達課題としてまず挙げられていて、人から快感情を感じ、スキンシップ、やり取りを通して相手に対して快感情を感じていくというところは非常に大事で、例えば虐待となると、人に対して恐怖心とかが芽生えたり、さらにストレスを受けることになると思います。それによって脳への影響、発達への影響というのは非常に大きく、乳児期から脳の構築というのが始まっていて、そこでストレスを受けるのは非常に大変なことになります。その後の発達に続いていくわけですけれども、安心、信頼の獲得というのが非常に大事で、その後生きる力の根幹になって目標の達成、遊びでも教科による学びでも、何かを達成するというところでつながってくると思います。もちろん乳児期から大事なんですが、3歳から5歳という中で前頭葉の発達というのが行われます。そこで自分で目標を見据えて、それに対してやり抜く力とかいうのも最近言われていますけれども、ある研究では、この時期のやり抜く力というのが将来的な人における人生の成功、例えば所得の向上とか犯罪率の低下とか、そういったところとも幼児期のそういった能力に関わるというのが言われています。マッシュマロテストとかは、自分の感情を抑えるという前頭葉機能を反映するような、我慢するということが後々人生の成功につながると言われていますけれども、この時期に生活、遊びを通してやり抜く、遊び抜くという経験が後々の好奇心や、自尊心や自己肯定感がそういう経験を通して育まれるというところにもつながってくると思っています。あと社交性、思いやりとかも、人との関わりの中でつながっていくと思っています。

こういった能力を育てるために例えば支援的な関わり、子どもの発達を見極めて、なるべく自分でできるように促していく。それはただ「やりなさい」ということではなくて、しっかり子どもの発達を見て、それに適切な支援をしてあげるとか、活動中もただじっと

見ているだけではなくて励ますということを通して、子どもはそれでもうちちょっと頑張ろうと思えたりする。達成したら頑張ったことをしっかり褒めてあげる。そういった関わりを通す中で、子どもたちは主体的に自分で目標を達成したりしていく。その中で自尊感情とか自己肯定感を育み、自信をつけるということにつながるんだと思っています。保育者とか教育者、支援者は、求められてヒントを出し、できるように促すというところで、子どものペースをしっかり守るというのはすごく大事な点かなと思います。

ストレスに関しては、自然との触れ合いとか、五感を育てるというか、育むという点にも関わると思います。さらに自然の中に行く、緑を見たりすると体の中でいい変化が起こることということも分かっていますし、感性や心身の健康にもいいと思います。

ストレスを減らすと、この時期に育つ前頭葉の発達にいいんですね。前頭葉というのは非常にストレスに弱いので、そういった負の感情がたくさんあると前頭葉の発達にもよくなって、ということは生きる力の発達にもよくないという連鎖が多分起こると思われます。もう一つ、動物との触れ合いというのも、やはりいいのかなと個人的には思います。

あと、子ども同士の活動です。教え合いなどの活動の中でも、他者との関わり中で物事を進めていくという基礎になると思っていますので、そういった機会もつくることは大事だと思います。ちなみに劇などの活動も実行機能の発育に関わると言われています。

■前頭葉がストレスに弱くて未発達だと、感情のコントロールができず、どんな問題を生みますか。

■まさに感情の抑制ができなくて、この時期はイヤイヤ期と言われるように、誰しもが自分の感情を表現するというのは、それはそれでももちろん大事で、自分の感情を表現して保育者がそれを認めてあげる、共感的に受け止めてあげるというのは大事です。ストレスによる前頭葉機能の低下というところでは、他人をちょっと攻撃的にたたいてしまったりとか、注意欠如というか、集中力が続かなかったり、やり抜けなかつたりとか、そういった部分にも関わってくると思います。目標の達成の部分にも非常に関連していますし、他者との関係の中でも、他人を傷つけてしまうとか、そういったところで問題が出てくるだろうと思われます。

■各論ですが、最近、愛着形成障害みたいな、お仕事がお忙しい方も多い時代で、何かうまく関わっていないといったことが、幼稚園の集団に入ってきたときに今までとはちょっと違う形で出てしまう。今後そういったところを乳児期にどれだけ大事にするのかを、きちっと押さえておきたいということと、今お話いただいたような知見は、これは大きな論

点ですけれども、保護者が分かっていない。国もこういう教育デザインを敷いているし、現場もそういうふうにあるかと思っっているけれども、保護者はいき急ぎ、少しでも早く小学校の勉強ができるようにしたいみたいな勢いというのはあって、逆にそれをやると後から、もう分かっているみたいな形で意欲を失った子どもが上に上り、他者評価で支配される子どもが上に上がっていってしまう。そこを保護者にどういうふうに啓発をしていくのかという論点の一つあると思います。ですから武蔵野市としてこれは大事で、それがどう大事なのかということが伝わるようなものになったらいいなというのが一つです。

もう一つは、共生社会を目指しているわけですから、多様な方々とつながって力を合わせられるという意味では、インクルーシブな教育というものがどうあるべきなのかというところは、ここも一つ話題にさせていただければありがたい。

本園は、学齢3歳からスタートですけれども、育休が満2歳で終わって、生まれ月の月齢でいうと長い子は2年ぐらい学齢3歳にいくまであるんですよ。この2年間を家庭教育と地域教育、あるいは集団生活の場、幼児教育の場の幼稚園で、どんなふうにデザインしていくのか。家庭で育児をされている保護者層も武蔵野はまだ多く、半分ぐらいはいらっしやるので、そういうところにどういうアプローチをかけて支援をしてあげればいいのか、家庭でいる方をどう支援して、また幼稚園につなげていくのかということも一つの論点かなと思います。

■武蔵野市の場合は、まだ家庭での育児の率が他区、他市に比べて多いですかね。

■令和2年の5月の状況を見てみますと、0歳から2歳までの家庭保育の割合は大体51%ぐらいです。1,700人ぐらい、幼稚園にも保育園にも行っていない0歳から2歳の方がいらっしやいます。3歳から5歳になると幼稚園と保育園が半分ずつぐらいの割合になります。行き場所としては、武蔵野市で言うと0123施設であつたりとか、コミセンでもコミセン親子ひろばであつたりとか、ひろば事業に行かされているのかなとは想定しています。武蔵野市の場合は、結構多くの方が幼稚園にも保育園にも行っていないというのが現状です。

■大事な指摘をありがとうございます。幼児教育は一応行政的には3歳以上のことを考えているのでしようけれども、その前のことをしっかり押さえながら3歳以上の幼児教育を考えるとすることは、明らかになったんじゃないかなと思います。

■保育園では、心と体というところで両方が育まれていかなければ、将来的にどんな人たちになっていくのかということを考えると、今まで先生たちがおっしやっていたようなこと

は、とても大事になってくるというのは日々感じているところです。

ただ、保育園なので朝から遅くまでいる子が大半なんですけれども、心の乱れというか、何かしら子どもらしさが欠けている、寂しい顔や疲れている様子の子どもたちもいる。それを考えると、保護者、地域の方、市役所の中の子ども家庭支援センターとか、いろいろなところを含めて考えていかななくてはならないと、多分どこの保育園も感じていると思います。

それに対して職員も、子どもたちに対してどういうふうに保育をしていったらいいのかと悩みながらやっていますけれども、実際は保育園にいて、自分たちが向上していくために研修をすることが、なかなか現実的に難しいということもあります。そんな中でも、今は3月時期なので学校や学童保育との連携という意味で、気になる子がいるのかなとか、「この子の特徴は」ということの申し送りをしたり、保育要録によって、もう少し学校の先生とのうまい連携の仕方というところも実際考えていかないと感じています。

■小学校との連携は今のところ指導要録とか就学支援シートのやり取りぐらいでしょうか。地域によっては、もっと進んでいる校区もあるのでしょうか。

■基本的に根拠となるのは要録であるとか、就学支援シートのやり取りというのはあると思うんですけれども、今、先生からも話がありましたとおり、1校の小学校にたくさんの保育園や幼稚園からいらっしゃいますので、3月の時期というのは、今の1年の担任がそれぞれ園を訪問し、電話での聞き取りをして、一人一人のお子さんについて、要録などでは書き表せないようなことや、いろいろな課題、学校でも学級編制に必要な情報をお聞きしたりします。今回コロナ禍ですから電話でのやり取りが多くなっているのかなと思います。ただ、集団としてどうであるとか、そこの保育園や幼稚園でどのような保育をしてきたのかとか、教育をしてきたのかというところまでの聞き取りだとか連携だとかにはなっていないのが実情だと思います。小学校の理解もそうですし、小学校の教員たちが幼稚園や保育園でのそれぞれの方針を理解して、ではどういう子どもたちをお預かりするのかということを考えていくということが必要なのかなとは、今いろいろお話を聞いていて思ったところです。紙ベースだけじゃないやり取りもあるということも含めて御理解いただければと思います。

■幼児教育施設の方は小学校の見学に行ったりとか、逆に小学校の先生が園に見学に来たりするとか参加するとかといういわゆるシステムはないわけですね。

■研修自体も働き方改革の観点から少なくなってきているので、今はないです。市内にお

いては、幼稚園と小学校の併設もありませんし、なかなかそういう様子は見に行けない、来ていただくということも、今年度は特に難しかったという状況です。

■今年か、昨年か、市内の小学校の新人の先生が、幼稚園に1日研修でいらっしゃいました。

■若手教員の育成ということで、初任者には、1年間初任者研修があります。その中で幼稚園や保育園での課題別研修も単位としてあり、それを利用すると保育園であるとか幼稚園に行くということがあります。ただ、全員それに参加できるというわけでもないので、ジャンボリーの参加や、学童、あそべえとかにも行ったりするということがあります。

■そういう仕組みがあれば行く、仕組みがなかったら行きませんということですよ。

■小学校教育にも絶対生きるわけで、何かその仕組みに対する必要性を感じませんか。

■校長をやっていた前任区でも、そこもやはり幼児教育との接続というところもありましたが、区自体で幼稚園の先生と小学校1年生の研修ということも設けていました。お互いを知るということについては研修という形でなくても、仕組みとして整えていくことは必要なので、何をやっているのかを知らないと、自分の指導の中には生きていけないと思います。

■私もいろいろな幼小の事例を現場で伺うことがあるんですけども、一緒に何かを取り組むというのは、結構小学校の形に引っ張られていくこともあって、あるいは研修も子どもがいなくてイメージが全然違うので、できれば現場で学び合うというか、来ていただいて子どもの姿や私たちの環境のつくり方とかというのを見ていただきながらディスカッションするのがすごく有効だろうと思っています。

■今、委員になっている先生方は、それぞれ幼稚園、保育園、学校の立場で出ていると思うんですけども、市内に幼稚園は12園ありますし、数多くの保育施設がありますので、それぞれの皆さんの議論を活発にする手法として、各園の例えば先生方に生きる力に対する考え方、各園それぞれ理念ですとか取組を、アンケートでもいいんですけども一回調査して、武蔵野市の中でどのような形で関わっているのか、取り組んでいるのか、どういうところに課題を持たれているのか、広く御意見を伺うということをやってみてはいかがでしょうか。

■先ほど全体の考えを共有できていないということだったので、こういうアンケート調査を取って、現状の把握として園の先生方の考え方とか、そういったものをまずこちらも知っていくということはすごく大事なことだと思います。

あと教育に関しても、評価と効果の検証というところで、こちらで考えて、こういうのがいいというのは多分提案するんですけども、その効果の検証というところまで、実際どうだったのかというところまで出していくには、そういう調査というのもすごく大事で取り入れていく必要があると感じています。

■生きる力の調査というところでは、私も各園のそういう状況というのは詳しく知らず、表面的に出ているものしか知り得てないので、そういう調査をするのはいいと思います。学校と同じような行事は保育園にもありますが、学校ではどういうふうに取り組んでいるのかなというのが実際に私たちも分からないので、例えば同じ行事をやるにしても、どんな考え、どんなことを思って、子どもたちや先生たちがやっていっているのかということも知りたいなというところです。

■保幼小連携の実態は調査したいですね。

■似たような行事をどのような思いでやっているのかというのは、自分も校長として周りの保育園の運動会とかに学校を貸していることもあったので、全く先生方の思いというか、目的的なところが違うなというのを実感として感じています。そういうことが情報交換できるとすごくいいなと思いました。

■学校の連携というところでは、過去に年長のクラスが授業を見学することをやってきました。その結果、学校ってどんなところなんだろう、行きたいけれどもどんなところかなという心配な面もたくさん子どもたちは持っているので、子どもの安心の助けになると思います。

■市内の現状は把握していかなければいけないので、先ほど言ったように調査をかけていくのは大事だなと思うんですけども、副校長を第四小学校でやっておりましたので、そのときには北町保育園ともよく交流等で1、2年生、特に1年生の生活科で学校を紹介するということであるとか、保育園や幼稚園の子どもたちも広い校庭で思い切り遊ぶというような経験とか、あとは学校の中を案内したりとか、ランドセルを背負わせてみるとか、子どもたちが新しく入ってくる1年生たちにどんなことをさせたいかという提案をしました。やはり子どもたちはいろいろなアイデアを出すので、それをもとに計画し、生活科で作ったものを逆に幼稚園や保育園児に教えるというに、目的意識を持てば授業での活動についても何かゴールがあると、子どもたちもやはり意欲的に取り組むというようなことがありました。今年はそういうところは難しかったと思うんですけども、昨年度も含めて、現状として把握することは大事だなと思います。

■保幼小連携については、子ども同士の交流活動はどうかとか、教員同士の情報連絡はどうしているのかとか、理解推進のための事業をしているのかとか項目を分けて調査をかけたらどうでしょうか。

■もともとの論点である、生きる力をそれぞれどう理解しているのかも、押さえておきたいなと思います。

それから生きる力にしても、共生にしても、何を現場はやろうとしているのか、このメンバーの中で、子どもの姿や取組として共有できたら話しやすくなるかなとは思いました。

■素晴らしい御提案をありがとうございます。「生きる力をどう捉えていますか」とか聞いたら、私立幼稚園にはいろいろな園があるので、きっと表向きの言葉が並ぶだけかと思うんですけども。

■そうですね、でも、きれいな言葉が出ていけば出ていたで、そういうことなんだなと。

■「どう考えていますか」と聞きたいですね。

■まず考え方を聞くのと、あとはどういう実践を通してそれをやるのか。多分目的とかは保育指針とか教育要領を見れば書いてあると思うんですけども、それぞれの園がどういう実践を通してそれをやっていくのか、園の取り組み方、どういう機会を捉えて目的を達成しようとしているのかというところを聞いて、実際にどういう実践をやっているのか、それがうまくつながっているのかつながっていないのか。理解していれば、それぞれの園の特徴でやっているんだなというのが分かるし、やられてなければ、なかなか意味のある言葉になってこないと思うので、そのあたりも聞ければと思います。

■それ以外のところで、保護者にどう理解を進めていくのかというのは、論点には上がっていないけれどもとても大事なことで、おうちで子育てをしている人たちが、子育てで何が大事か知ろうと思ったら、どこで知ることができるのでしょうか。

■「むさしのすくすくナビ」には予防接種のスケジューラーがついているので、母子手帳をもらって、子どもが生まれて予防接種が始まると、「むさしのすくすくナビ」の登録が結構増えています。今も5,000人以上の方が登録されているので、こちらからメッセージは定期的にプッシュ型で知らせることができるので、そういう意味では講座のお知らせもそうですし、例えば助成金の御案内とかもしていますし、いろいろな使い方があるので、「むさしのすくすくナビ」に登録されている方については、そういうプッシュ型のお知らせというのはできる可能性はあると思います。

■この時代なので、子どもたちがこんなふう to 育っていくのだみたいなことを、オンデマンドでデータを入れておけば好きな時間に、10分とか短い時間でいくつもいくつも見ていけるようなおもしろいものができたら、ホームページでもアプリでも素敵だなと思います。

■1回5分ぐらいの短かなもので、前頭葉にストレスがかかると駄目だよとか、遊びがいかに大事かとか、すくすく子育て武蔵野版みたいなイメージですね。

■理解を促すには、やはりそういう知識があると、子育て不安とか、どうしたらいいのかな、これって正しいのかなというときにすごく役立つとっていて、とてもいいと思います。虐待のところでも友田先生という福井大の先生が虐待防止支援マニュアルみたいなものを出していたりしますので、リーフレットとか作ったり、今のオンデマンドみたいなものでやるといいかなと思っています。ちょっと難しいかもしれませんが、虐待のリスクを把握するために、そういうものを通じてストレス度チェックみたいなものがあると、その変化とかも把握できるといいかもしれない。

■「きょういく武蔵野」の中に幼児教育のコラムをちょっともらうとかできませんか。

■かつて境幼稚園があったときまでは、教育委員会の中では幼児教育も管轄していたわけですが、認定こども園化するに当たって管轄が分かれてしまったという経緯があります。そういうところで「きょういく武蔵野」は今のところ市立小中学校というところはあるのですけれども、今回のこの会議の議論の中で出てくれば、さらに接続ということを考えて載せていくのは大事なかなと思うので、前向きに検討していきたいと思います。

■私たちが市内の実態もよく把握していないところもありますので、実態の報告も必要かなと。例えば、どんどん保育園ができていて、それがどうなっているのかとか、研修はどういうふうになっているのかとか、私立幼稚園の協会はどのようなふうになっているのかとか、保育園さんたちはどのようなふうになっているのかとか、そういう情報も次回共有できたらと思います。

■大変活発な御議論ありがとうございました。先ほどアンケートの項目について幾つか御提案いただきましたので、事務局で簡単に整理させていただければと思います。まず一つが、幼児教育に関する考え方を各園、各学校でどのように捉えているか、また、どのように設定しているか。それに伴って、その考え方をどのような実践に結びつけているか、どのような形で実践しているかという観点があるかだと思います。それと、例えば幼稚園、保育園と小学校の連携について、子ども同士の連携と教育者同士の連携が、それぞれにどの

ようになっているかということも挙がっていたかと思います。付随する課題としては、保護者にそうした課題だとか実践についてどのように理解してもらっているか、伝えているかというような御提案もあったかと思いますので、こうした点を中心にアンケートを組み立てていければと思います。

○アンケートの時期等については遅くならない範囲で、しかも各機関に負担がかかりすぎないような形で実施させていただければと思っています。

■インクルーシブ保育の話がありましたけれども、配慮を要するお子さんに対してどういうふうにとか、外国にルーツがあるお子さんのことに対する観点も必要かなと思います。

■その点も含めて、アンケートを調整させていただきます。次回は4月22日（木曜日）、で予定をしています。

閉 会